

木曽川中流部に生息する希少魚 イタセンパラ(国指定天然記念物)の水そう展示

木曽川上流河川事務所では、平成27年9月1日(火)より、事務所1階ロビーにおいて、木曽川中流部に生息する希少な魚類「イタセンパラ」の水そう展示を実施しています。



水そう展示状況(事務所ロビー)



水そう内のイタセンパラ

イタセンパラとは

イタセンパラは、二枚貝に産卵する日本固有のタナゴ類の1種です。分布は濃尾平野を含む国内3地域に限られ、いずれの地域においても絶滅が危惧されており、国の天然記念物(文化財保護法)などに指定されています。

かつては広く生息していたと考えられる濃尾平野の中でも、現在の確認箇所は、木曽川中流部のごく一部のワンドに限定されています。



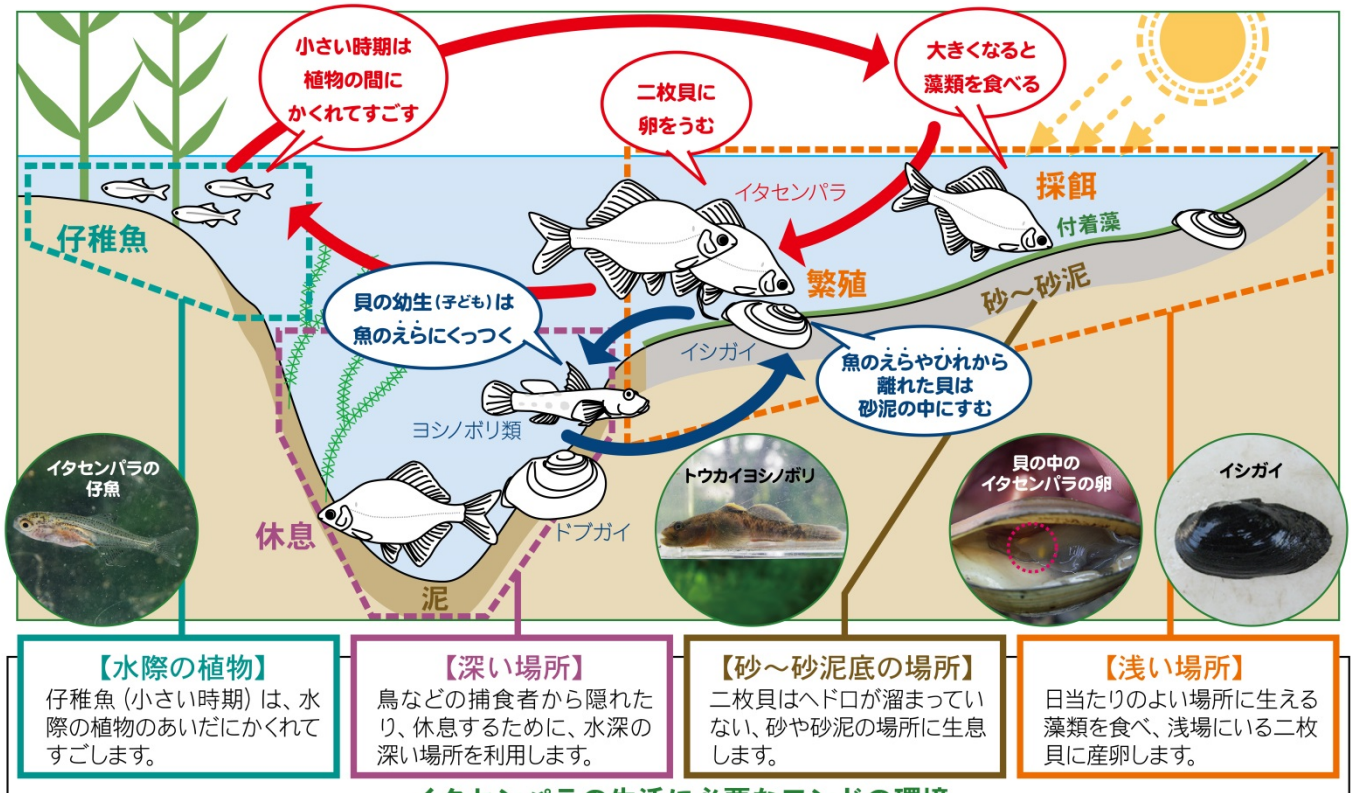
↑繁殖期のオス。鮮やかな婚姻色を示す。

←繁殖行動を示すイタセンパラのペア(写真:浅野竣一 撮影)

イタセンバラの生活史

イタセンバラの繁殖期は秋で、孵化仔魚は貝内で越冬します。翌春水中に泳ぎ出てしばらくは水際植生周辺で過ごしますが、成長すると水底の付着藻類を食べるようになり、秋に成熟し繁殖を終えると死亡する「年魚(寿命はほぼ1年)」です。

また、二枚貝は、幼生のうち一時期を、ヨシノボリ類などの魚類に寄生して過ごします。



木曽川上流河川事務所の取り組み

木曽川上流河川事務所では、イタセンバラの生息するワンド環境の維持・保全のため、堆積土砂の浚渫等の河川環境工事(生息域内保全事業)を実施しており、現在、その成果として、二枚貝の増加傾向が確認されています。

こうした対策は、地元自治体と協働で見学会を開催するなど、地域への情報発信を行いながらすすめています。



工事見学会(地元小学校参加)

このたび水そう展示を行うイタセンバラは、絶滅リスクの回避・種の系統保存を目的として、環境省が実施している生息域外保全事業の一環として人工増殖されたもので、関係諸機関の許可・協力を得て行っています。